

## 井原市公共交通会議（令和2年度第3回）議事録

と き 令和2年10月6日（火）

10：00～11：40

ところ 井原市役所4階大会議室

### 1. 開 会

#### 会議の成立を報告

- ・ 出席者 委員 25名中 21名（実出席 21名、代理出席 0名）

### 2. 大舌会長あいさつ

#### 事務局から前回公共交通会議の概要を説明

#### 貨客混載について説明

（委員） 前回会議で発言した貨客混載について、協議の前に説明したい。通常であれば人の輸送はバスやタクシー、荷物の輸送はトラックが担っており、旅客と貨物を一緒に運ぶことを貨客混載と言う。路線バスや乗合タクシーによる貨客混載は、法律で認められているが、タクシーでの貨客混載は許可が必要である。なお、タクシーによる貨客混載の要件として、当初は過疎地域に該当し、人口が3万人未満の市町村に限られていたが、現在は過疎地域とみなされた地域で、合併前の市町村単位人口が3万人未満であれば要件を満たすため、井原市においても旧町であれば実施が可能である。また、白ナンバーの車両を用いた自家用有償旅客運送での貨客混載については、貨物事業者が需要に対応できていない場合に許可を取得する必要がある。その他にも貨客混載とは異なるが、現在新型コロナウイルスへの対応として、タクシーによる食料品等の宅配ができるようになっており、この制度は9月以降も継続される。貨客混載のような大きな要件はないため、今後の参考にしていただきたい。

### 3. 協 議

#### 1) 井原市地域公共交通計画（仮称）の策定に向けて

- ・ 事務局により頁を分けて説明

##### ① 網形成計画策定時の課題を踏まえた現状

（会長） ご質問・ご意見等はあるか。

（委員） 資料の中には、様々な移動ニーズへの対応が課題とされているが、予約型乗合タクシーの運行エリア拡大に関しては、まず利用者が少ないという問題を解決する必要があると思う。住民アンケートを実施しているのであれば、予約型乗合タクシーを実施しているエリアに絞った分析を行い、どの

ような改善が必要なのか検討してもらいたい。一丸タクシーが担当している運行エリアの利用者からは、便数と運行する曜日に対する意見が多く、通院する病院の診療日と予約型乗合タクシーの運行日が合わないため利用できないという声を聞いた。今後、検討を進めていく中で、アンケートの結果を活用し、現状の問題点を整理してもらいたい。

(事務局) アンケート調査結果から、予約型乗合タクシーのエリアに限定した意見集約はできていないが、利用者の声は届いている。予約型乗合タクシーの導入前には運行する曜日の希望を取っているが、運行開始時から状況が変わっていることもあるため、再編を検討する際は、交通事業者の皆さまと協議していきたい。

## ② 公共交通ネットワークの現状

(会長) ご質問・ご意見等はあるか。

(委員) 芳井地区でバスを使う人はとても少ないが、無くなったら不安だという話を天神峡線の利用者から聞いた。この利用者は、バスで芳井地区や市中心部の医療機関、芳井マーケット（A コープ）に時々行っており、決まった時刻のバスに乗って、行きたいところに行けることが安心感につながっているのだと思った。再編を検討する際には利用している人が安心できる形にするべきだと強く感じている。

(会長) バス停の近くに住んでいるのか。

(委員) バス停から近い場所に暮らしている。一方で、バス停から遠い地域の高齢者は利用できないため、危ないと感じながらもバイクを運転している人もいる状況である。

## ③ 計画の基本理念と基本方針（案）

(会長) ご質問・ご意見等はあるか。

(委員) 基本理念については、上位計画等を踏まえると資料で示された形になると思うが、文章が長く感じた。「住み慣れた地域で誰もが自立した生活を送り」と「安心でいきいきと暮らしていけるまち」は同じ意味も含まれているので、もう少し短くできるのではないか。様々な言葉を入れたいという想いは理解できるが、今後、新しい計画を作るたびに更に文章が長くなってしまふような気がする。

(事務局) 事務局としては、本日の会議での議論を基に基本理念と基本方針をある程度決定したいと考えており、本日の会議で全てを決めるわけではない。次回の会議で計画の素案を示したいと思っているので、そこでさらに言い回し等についても指摘があると予想している。本日の会議では基本理念・基本方針の大筋を決定したいということでご理解いただきたい。

(会長) 交通事業者という立場で必要な観点があればお願いしたい。

(委員) 様々な面から検討を積み重ねて、計画の方向性や方針を示しているのかと

思う。すでに議論は進んでいるが、公共交通は利用者ありきのサービスなので可能な限り、きめ細かく対応し、利便性が高まるよう進めていきたい。やるべきことはしっかり対応することが交通事業者の基本姿勢だが、井原鉄道の場合だと、単線なのですれ違いの場所の確保等、乗り継ぎ改善等のサービス向上にあたって技術的な制約がある。鉄道だけでなく、バスやタクシー事業者も同じような課題があると思うので、交通事業者と行政で議論ができる場があれば、実行性のある計画に近づくのではないかと。

(委員) 同意見である。予約型乗合タクシーの運行等、具体的な問題を市と交通事業者が議論できる場が必要だと思う。

(委員) 同意見である。公共交通会議は様々な立場の委員が出席しているため、事業者の立場では発言しにくいこともあるかと思う。また、各地域の委員と行政の間で、意見交換の場を設けても良いのではないかと。

(委員) 様々な立場の委員が、ざっくばらんに発言することが本会議の筋だと考えており、事業者が意見を言う時間を増やしてほしいと思っている。計画についてだが、基本理念や基本方針に「共生」や「共助」といった言葉を加えてみてはどうか。

(委員) 各事業者の意見に対して、特に付け加えることはない。

(副会長) 現在、交通事業者は非常に苦勞している。再編等、大きな変更も予定されているので行政からの一方的な発信ではなく、現場の声を聞くためにも交通事業者と積極的に協議してほしい。計画については、地区ごとの問題をさらに取り上げてもらいたい。

(会長) 各地域の代表からも意見ををお願いします。

(委員) 美星地区の六部落で暮らしているが、車を運転できない高齢者は福祉タクシーを利用していると聞いており、バスを利用する機会が少ないのではないかと。

(委員) この会議では、美星地区の今後のビジョンが出ていない。美星地区は吉備高原の中部地帯に位置しているので、近隣市町の公共交通等も参考にしてほしい。

(委員) 利用者がいない路線の廃止は妥当かもしれないが、その地域の住民の気持ちとしては非常に寂しく、ますます過疎になってしまう気がするため、公費を活用する等してバスを存続してほしいと思う。

(委員) 芳井地区の共和地域で暮らしているが、バス路線の見直しは是非実行してほしい。芳井地区の中心部から弥高山の路線沿線は、空き家が多く、利用者も少ないが、近辺の集落に、1日1往復でも良いので路線を経由させる等、路線全体を見直してほしい。確実に利用者がいるとは言えないが、今後高齢化が進む中、バスの需要は高まると思う。

(委員) 新しい井原あいあいバスの時刻表ができて感心しているが、利用したいが利用できない人もいるため、高齢者の集まる場を活用するなどして、高齢者の実態を踏まえた計画を検討してほしい。新型コロナウイルスの影響も

あり、会合等の機会が減っているが、高齢者の意見を把握し、公共交通を人々の生活の足として使えるようにしてもらいたい。

- (会長) 次回の会議では、計画の内容をさらに具体化するとともに、基本理念については文章を短くした案を次回で示すことになるが、基本理念や基本方針については、資料で示してある方向性で良いか。

#### 【協議事項承認】

- (会長) 最後に、何かあれば発言をお願いしたい。

- (委員) 本日の会議全体を通して、県内の様々な自治体の公共交通会議に出席しているが井原市は非常に良い議論をしていると感じた。また、各交通事業者からは、営業や具体的な運行内容について議論をする場がほしいという意見があったが、他市町村でも実施していることなので井原市においても進めてほしい。

資料で示されている内容としては、バスの利用者と自由に使える車を持っていない人の情報提供に対する意識が違う点が気になった。これは日常的にバスを利用している人は運行の状況をわかっているが、利用していない人にとって、現在公開されている全体的な情報では「きめ細やかさ」に欠けていることが表れたのではないかと思う。また関連して、予約型乗合タクシーの場合は、限られた需要を把握していく視点や、地域住民と議論していく中で、状況に合わせて柔軟に、公共交通維持・確保の仕組みを変えていくことも必要だと思う。井原市はこれまでも努力しているが、「きめ細やかさ」をキーワードにして次の計画の内容を考えてみてはどうか。

また、資料に書いてある内容が難しいという声があったが、概ね妥当な内容だと思う。わかりにくい点については、それぞれの状況に配慮したものを作っていけば良い。

- (会長) 基本理念、基本方針の方向性について承認いただいたので、次回会議以降、計画を文章化していく中で、本会議の意見を踏まえ更に検討した案を提示する。

#### 4. その他

- (事務局) 次回会議は11月上旬を予定している。

配布させていただいている時刻表は広告入りの時刻表として広告収入を活用し経費をかけずに発行したものであり、参考までにお手元に配布している。

- (委員) 資料を配布しているが、大原美術館の全面協力のもと、井原鉄道の車両を名画でラッピングした、アート列車の運行を計画している。この事業の背景としては、新型コロナウイルスの影響で交通事業者全体が大変苦しい状況にある中、コロナ後に多くの人が沿線地域に来ていただく次の一手とし

てこの企画を考えた。また、列車の外側だけではなく、列車内も壁や天井に名画を散りばめることを予定している。資金については、11月から井原鉄道、大原美術館、井原線沿線観光連盟、岡山県観光連盟、岡山県文化連盟で実行委員会を立ち上げ、クラウドファンディングを実施したいと考えており、状況については井原鉄道のホームページやツイッター、フェイスブック等でお知らせしたい。ご理解とご支援をいただきたいことと共に、皆さまを通じて多くの人にこの取組の存在を広めてもらうよう、お願いしたい。

(副会長) 本日は熱心に審議していただき感謝している。資料では様々な内容が示されているので、地域に持ち帰って意見を聞いてもらいたい。

## 5. 閉 会

以上